



[映画上映] In Between - In Search of Native Language Spaces-
『はざま-母語のための場をさがして-』

[日時・場所] 2024年 **9月21日** 大阪 / **10月5日** 東京 / **10月13日** 名古屋 / **12月7日** 福岡

[対象] 外国ルーツの子どもと関わっている教員、支援者、学生、一般 (※詳細は裏面参照)

[言語] 音声は日本語・英語ほか。日本語字幕あり。

[参加費] **無料**

[プログラム] 映画上映、監督との質疑応答、ならびに、MICLEプロジェクトによる調査報告



朴基浩 はくきほ

立命館アジア太平洋大学 (APU) 卒業後、通信制・定時制高校生の直面する「進路未決定」の課題を知り、NPO法人DXP (現: 認定NPO法人DXP) を設立。主に夜間定時制高校や、通信制高校での正課授業としてのキャリア教育プログラムをてがけ、体験学習プログラム、居場所事業などを展開。同法人の共同代表を2015年に退任後、映像制作を始め、「女性の生理」を捉えたドキュメンタリー作品で映画祭入賞。ローカルコーディネーターとしてBBCやAl Jazeeraなどの番組制作に参画するほか、NPO法人クロスベイス理事、NPO法人KUNO・多文化ふらっとアドバイザーも務める。

[制作] 「日本と出身国を往来する移民の子どもの社会再統合を見据えた言語教育—母語・公用語の補習教室を地域の「多文化共生」の拠点に」 (Migrant Children Language: MICLE) プロジェクト (代表: 上智大学 田中雅子)

[助成] トヨタ財団2022年度国際助成プログラム

In Between - In Search of Native Language Spaces-

『はざま-母語のための場をさがして-』

大阪

日時: 2024年 **9月21日(土)** 13:00-16:00 (受付開始 12:30) 対面のみ、オンライン配信なし
会場: 特定非営利活動法人IKUNO・多文化ふらっと 多目的室
場所: 大阪市生野区桃谷5-5-37 いくのコーライブズパーク (旧 御幸森小学校、鶴橋駅より徒歩15分)
申込: 先着70名まで Google Form <https://forms.gle/JQMRR5R8fLnc5Lz37>
主催: MICLEプロジェクト
共催: 特定非営利活動法人IKUNO・多文化ふらっと、MICLEプロジェクト
連絡先: MICLEプロジェクト micleproject2022@gmail.com



東京

日時: 2024年 **10月5日(土)** 13:00-16:00 (受付開始 12:30) 対面+オンライン配信併用
会場: 上智大学四谷キャンパス2号館414教室
場所: 東京都千代田区紀尾井町7-1 (四谷駅より徒歩5分)
申込: Google Form <https://forms.gle/oSWj8oDBpjrgcjkJ8>
オンラインも事前申込が必要 <https://x.gd/waEB2>
共催: 上智大学アジア文化研究所、MICLEプロジェクト
連絡先: 上智大学アジア文化研究所 03-3238-3697 i-asianc@sophia.ac.jp



対面用



オンライン用

名古屋

日時: 2024年 **10月13日(日)** 13:30-16:30 (受付開始 13:15) 対面のみ、オンライン配信なし
会場: ウィンクあいち 愛知県産業労働センター12階1203号室
場所: 名古屋市中村区名駅4丁目4-38 (名古屋駅桜通口より徒歩5分)
申込: 先着100名まで Google Form <https://forms.gle/8jJMroZrs1tcU91i7>
主催: MICLEプロジェクト
連絡先: MICLEプロジェクト micleproject2022@gmail.com



福岡

日時: 2024年 **12月7日(土)** 13:00-16:00 (受付開始 12:30) 対面のみ、オンライン配信なし
会場: 西南学院大学2号館201教室
場所: 福岡市早良区西新6丁目2-92 (地下鉄西新駅よりすぐ)
申込: Google Form <https://forms.gle/UVyjizSpPMJH2Txcg9>
主催: MICLEプロジェクト
連絡先: 西南学院大学 吉野あかね a-yoshino@seinan-gu.ac.jp



〈監督からのメッセージ〉

日常生活言語は日本語、母語は朝鮮・韓国語。在日コリアンとして生を受けた私にとって、それは当たり前のことでした。いわゆる「バイリンガル」として成長するなかで、日本という国が「モノリンガル」的社会であることに気付いたのは随分と時間が経ってからでした。そこから数十年という時間が過ぎ、日本は今「移民国家」になろうとしています。日本にやってくる外国ルーツの人々の母語は誰が保証するのでしょうか。彼らを受け入れる日本はここ数十年でどう変わってきたのでしょうか。あちらとこちらを往来し続ける私の視点によるこの映画を通じて、みなさんと一緒に考えてみたいです。